文化庁　平成24年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（ミュージアム活性化支援事業）　Saitama Art Platform 形成準備事業

SMF ひろがる Press

SMF Saitama Muse Forum

2013 3.21　号外②

SMF Round Table 2012

ラウンドテーブルのねらいのひとつに、場所・地域と向きあうことの意味を考えることがあると、僕は感じています。

近代芸術の歩みのなかには、抽象化というベクトルがありました。表現の純度を高めようと、具体的なものを遠ざけてきたのです。しかし今、例えば新潟の芸術祭にみられるように、具体的な場所の環境と積極的に関わろうとするアートに注目が集まっています。また、アーティスト・イン・レジデンスというのも、住むことで場所と濃密に関わるなかでの表現が問題になってくるものです。どんどんグローバル化される現代に、場所・地域と向き合って活動されている方々と円卓を囲んで語り合うイメージです。

今年度、ラウンドテーブルと似たような集まりに、二つ参加しました。一つは、建築学会の埼玉支部が中心になっている「交流展」というもので、県内の、それぞれの地域でまちづくりなどの活動に取り組んでいる、主に建築関係の方々の活動発表会。そこでは、ぼくも「うらわ建築塾」について報告しました。もう一つは、県の文化振興課の主催で、芸術活動に対する助成金をもらっている団体が、その成果を発表する「文化芸術拠点創造事業 成果報告会」というもの。使われなくなった建物をリニューアルして、美術や音楽、地域振興等の活動を展開する時、そのためのハードやソフトに県が助成をしているのです。

二つの会ともに興味深かったのですが、時間の制限もあり、どうしても単発の発表会で終わってしまった感じがします。その点、今年のラウンドテーブルでは、先行した「ああっと！ファクトリー」でごいっしょした「グルグルハウス」のメンバーからお二人の発表があり、さらに年があけて行われた「SMFさんなすび展」ではラウンドテーブルで発表された方・参加された方の多くがプロジェクトを展示されて、「つながり」が生まれ、大きな意味をもっていたと思います。それは、これから先のSMFの活動にも「つながり」を予感させるものでした。

ラウンドテーブルに集う方々は、それぞれ個性的なのですが、前後の「つながり」のなかで、より立体的に出会えたような気がしました。それぞれの方の、ご自身の拠点や特別な場所との関わりをみていくと、アートの表現が、具体的な場所や時間を生きることと背中合わせになって生まれていることに気づかされるのです。

（Y・A）

吉田富久一さん

白濱雅也さん

今井伸治さん

柳井嗣雄さん、長谷川千賀子さん

鈴木のぞみさん、萩原貴裕さん

吉田武司さん

奥西麻由子さん

それぞれの活動を発表された方々

「SMFさんなすび展」&アート寺子屋「アートプロジェクトができるまで」

埼玉県立近代美術館の一般展示室で1月8日から13日まで「SMFさんなすび展」が開かれ、連動してアート寺子屋「アートプロジェクトができるまで」が開催されました。縁起の良い初夢を一富士、二鷹、三茄子などといいますが、新春にちなんでみなさんのアートの初夢教えてくださいと、これまでSMFの活動に関わってくださった方や12月のラウンドテーブルにご参加いただいた方に呼びかけての開催となりました。時間も予算もない中、22名から28件の多彩なアートの初夢を寄せていただきました。ご出展いただいた方々に感謝いたします。

実は本展の構想のヒントが三つありました。一つ目は世界各国のアーティストに実現しなかったアートプロジェクトについてリサーチしその結果をまとめた「Unbuilt Road 107 Unrealized Projects」(1997)、二つ目は埼玉県立近代美術館で開催した極小予算の企画展「夏休みの美術館」(1996)、三つ目は、誰でも建築家のノリで参加できそうな、ネット空間を主軸にした「一万人の世界建築家展」(2011)です。それぞれがさまざまな工夫で新たな局面を開く方向を示唆しており、この「さんなすび展」もいつかこうした展覧会にならって大化けしたいとの夢を重ねたものでもありました。

「木の棒の集合体(あなたもだいく)」、「記憶の容(かたち)プロジェクト―時間遡行機」、「花咲かアートさん」など、アーティストから提案された、大勢の人が関わり自然の中で時間をかけて熟成・実現したいプラン。「貧藝運動はさいたまから始まった」、「1日くらい黙って、言葉について考えよう」など、芸術の概念やアートが生成する場を問い直す試みの提案、「夢見る アートハウス プロジェクト」、「A.I.S.[Art Infomation Saitama]」、「いっぷくチェーンプロジェクト」、「SMF出版計画」、「SMFオフィス+書店」など、アートを社会に根付かせるいろいろなアイデア、「まちなみのフレーム(住宅地編)」、「カプセルmeets ヒアシンスハウス」(来場者提案)など建築家ならではのプラン、さらに自身の作品や活動を展開させたイメージ作品まで、A4判2ページが基本フォーマットの限られた紙面ですが、それぞれの豊かな夢が詰まっており、来場者やアート寺子屋の参加者からは「全部やりたいね」、「見てみたい」、「参加したい」といった声が次々に上がっていました。

会場でもっとも注目を集めたのは、社会芸術/ユニット・ウルスのみなさんが、炭粘土製のロートやもみ殻、燻炭、灰などを持ち込んで制作したインスタレーション作品「ウルスの泉―龍神プロジェクト」。歴史や風土、あたらしい水、自然との調和、人々の協働など、壮大な構想を元にしたプロジェクトを象徴的に視覚化した作品で、来場者投票でも一番人気となりました。

2日間にわたって行われたアート寺子屋では、出展者によるプレゼンを受けた後、共通点のあるアイデアをまとめたり、相互につないで可能性を広げたり、実現に向けての課題をクリアするため情報交換を行ったりと、自由闊達な意見交換の場となりました。また参加者同士が意気投合し共同で実現を図ろうと、直談判をはじめた方々もいらっしゃいました。ぷうーっと膨らんでくる餅を眺めながら、近い将来、いくつの夢が実現されていくか楽しみです。 (M.N)

執筆:(Y.A.)青山恭之/(M.N.)中村誠
編集:SMF広報委員会　発行:Saitama Art Platform 形成準備事業実行委員会　〒330-0061　埼玉県さいたま市浦和区常盤9-30-1　埼玉県立近代美術館内
問い合わせ:SMF.info@artplatform.jp　　文化庁 平成24年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業(ミュージアム活性化支援事業)

http://www.artplatform.jp